

### 第3回「北海道創生総合戦略検証ワーキング」議事録

(R1.7.25 [16:30~18:30] 道庁別館5階 石狩振興局大会議室)

#### 【堤課長】

定刻になりましたので、ただいまから第3回北海道創生協議会検証ワーキング及び北海道創生協議会幹事会の合同会議を開会したいと思います。梶井委員につきましては、遅れてくる見込みとなっておりますので始めさせていただきます。

開会にあたりまして、地域創生局長の高見よりご挨拶いたします。

#### 【高見局長】

高見でございます。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。それぞれの立場で地方創生に向けてご尽力いただきまして誠にありがとうございます。

平成27年に現行の北海道創生総合戦略を策定しておりますが、皆様ご承知のとおり本年度が5年目の最終年度となっているところでございます。道といたしましても今月の頭に終わりましたが、鈴木知事は初めての本格的な道議会の場面で、現行戦略について、しっかりと検証した上で次期戦略を策定するという事で議会答弁をさせていただいているところでございます。5年と言いましてもこの間いろいろな、後程説明もあると思いますが、経済社会情勢の変化等いろいろな動きもございまして、今回、創生協議会の下に、小磯先生に座長になっていただきまして検証ワーキンググループを設置いたしまして、これまで2回にわたってご議論をいただいていたところでございます。

本日はワーキンググループの3回目と幹事会の合同会議ということで、若干変則的な形になっておりますが、小磯座長はじめ、ワーキンググループの皆様にはこれまでご議論をいろいろ尽くしていただきまして誠にありがとうございます。本日は報告書の最終取りまとめということで、よろしくお願ひしたいと思っております。

また、幹事会の委員の皆様におかれましては、会議の後段の方で、本日取りまとまりました検証報告等に関しまして、ご意見等いただければと思っております。ワーキングの中では、関係人口をはじめ、人口減少が進む中でも豊かな生活ができるような地域づくり、それから増加する外国人との共生など、そういった新たな視点についてもご議論いただいていたところでございます。

北海道創生の次のステージに向けまして、皆様から忌憚のないご意見をお聞かせいただきたいと思いますと考えておりますので、本日は限られた時間でございますが、よろしくお願ひいたします。

#### 【堤課長】

ありがとうございます。本日の出席者につきましては、資料の中にごございます出席者名簿をもちまして、ご紹介に代えさせていただきます。なお、ワーキングのメンバーについては本日、熊谷委員と篠崎委員が欠席になります。梶井委員は先ほど申し上げたとおり、30分ほど遅れて参ります。

それでは早速ですが始めさせていただきます。まず、今回は合同会議ということで、会議の進め方についてご説明させていただきます。局長からの挨拶にもありましたが、前半と後半の2部構成ということを考えており、前半につきましては、第3回の検証ワーキンググループということで、議題といたしましては、北海道創生総合戦略の検証報告案につきまして、ワーキンググループメンバーの皆さんにてご議論いただき、まずはワーキンググループの報告取りまとめというところまでさせていただきます。と思います。

後半につきましては、幹事会の議題といたしまして、8月8日に開催する創生協議会で使用する資料等につきましてご説明させていただきます、ご意見ご質問等をお受けしたいと思っております。

なお、検証報告は、前半にてワーキング委員での議論の場とさせていただきます、取りまとめの後、幹事の皆様には、後半にまとめていくご意見など、何えればと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

また、小磯座長と梶井委員には後半もご出席いただきまして、幹事の皆様からのワーキング報告に関

する考え方など、ご質問がございましたが出てきましたら、コメント等をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

進め方などにつきまして、ご質問等はございますでしょうか。なければ、前半につきましては進行をワーキンググループの小磯座長をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

### (検証ワーキンググループ)

#### 【小磯座長】

それでは、前段の検証ワーキンググループは、私が座長をさせていただいておりますので、そちらの方の議事進行役ということで、進めて行きたいと思っております。これまで2回に渡り、ワーキンググループで北海道創生総合戦略、人口ビジョンの中身についての検証ということで作業しておりますが、限られた時間での検討ではありましたが、取りまとめということで、今日に至ったところでございます。基本的な議論が各ワーキング委員の皆さんからあり、綺麗な形で意見を集約して一本化するというような検証作業ではございません。あくまで事務局の方で、現在の北海道の総合戦略、それから人口ビジョン、それを丁寧に中間経過という中で検証していただいたものについて、幅広い意見を委員の意見という形で組み入れた形で整理したものであるということでございまして、今日はその最終の確認をいただきたいということ、もちろんご意見があればさらに追加で加えていきたいと思っておりますので、その中で、忌憚のないご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、資料の説明をお願いします。

### (議事1：検証報告(案)について)

#### 【堤課長】

それでは私から皆さんにお配りしている資料1の、北海道創生総合戦略検証報告案につきまして、ご説明させていただきます。また、検証報告の下に資料2がついておりますが、資料につきましては、これまで検討ワーキング委員の皆様からいただいた意見と報告書への反映箇所について取りまとめておりますので、基本的には検証報告の本体でご説明いたしますが、適宜ご参照いただければと思います。

それでは、検討報告でございしますが、1枚おめくりいただき、一つ目でございますが、まず初めに、これまでの戦略策定から経過につきましてまとめた上で、その中で、国の動き、また道の動きということで、現在の検証ワーキング設置までの経緯を書かせていただいております。30行目以降、検証ワーキングにつきましては、これまでの戦略に基づく取組の成果や課題について、今一度検証し、課題の抽出を行うということで、設置目的を書かせていただいております。

2ページ目以降、北海道の人口の動向とビジョンの検証ということで、3ページにわたり、まず戦略策定後の人口の動向ということで、一つ目に人口減少、少子高齢化がますます進んでいるということで、下の18行目ですが、自然動態ということで、まだ合計特殊出生率が全国より低い状況になっていることを書かせていただき、3ページ目、11行目からは社会状態について記載しております。18行目以降、4行ぐらいますが、梶井委員からご質問があった女性の転出超過の傾向などについても、ここで女性に関する大学の進学率の上昇であるとか、専門を生かせる仕事が東京に多いことなどから東京への転出が職業的理由じゃないかというような傾向についても記載させていただいております。

そういう人口動向がある中ですが、4ページ目、今回戦略の見直しというか、併せて人口ビジョンの検証ということで、14行目以降に書いておりますが、北海道の人口に関する動向につきましては、18行以下に書いておりますが、現時点においては、希望出生率の水準1.8であるとか、社会動態の推移につきまして、現行の戦略策定当時の推計に用いた仮定と大きく乖離していないことを踏まえて、ここでは大きな変更ではなく時点修正など必要な検討を行うべきであるというまとめでございます。

5ページ目につきましては、ここに先ほど小磯座長からお話がありましたが、今回の検証報告につきましては、委員の皆様から様々な多様な意見が出ておりましたので、その意見を本文に溶け込ませられなかったものにつきましては、こうした形で項目ごとに記載するというスタイルをとってございます。

めくりまして、6ページ以降、総合戦略の検証ということで、まず戦略の基本的な考え方の部分でございますが、この部分につきましては、改めて4行目ですが、人口減少対策は長期的な視点に立って切

れ目なく、粘り強く取り組んでいくことが重要。そういう認識のもとで、目指す姿や取組の基本方向は、現行総合戦略の考え方を土台としつつ、経済社会情勢の変化等見据えて検討していく必要があるということにさせていただきます。この部分につきましては、第2回の検証ワーキングの際には、継続という言葉強く出していたのですが、2回目の検証ワーキングで経済社会情勢の変化のところで、皆さんから新しいものについて、きちっと対応していくべきだというご意見もあったものですから、ここは継続と言うよりも、変化を見据えた検討というのも含みを残した形に変えております。

また、17行目以降に戦略の枠組みということで、現在の総合戦略は重点プロジェクト、基本戦略、地域戦略という三つの構成となっておりますが、その枠組を基本としつつ、重点戦略プロジェクトは、こちら第1回、2回ワーキングにおいて委員の皆様からの様々なご意見をして念頭に、7ページ1行目ですけれども、施策の絞込み、メリハリ、道民への分かりやすいメッセージの発信というキーワードを書かせていただいて、そうした上で、さらなる重点化を検討する必要があるということにしております。

また、基本戦略は4行目にありますとおり、社会経済情勢を踏まえた新たな視点を加えて検討すべきであるということ。また、5行目、地域戦略は引き続き市町村との連携をさらに密にしながら取組を進めていく必要があるということにさせていただきます。

8行目にある推進管理ですが、これについては、引き続き、KPIによる継続したPDCAサイクルの確立ということと、産学官の創生協議会を通じた官民連携により推進を図る必要があるということにさせていただきます。

8ページ目以降につきましては、先ほど言った三つの各戦略の検証の部分でございます。まず検証に入る前段としまして、数値目標、KPIによる進捗状況と全体評価について記載してございます。ここで一つ、囲みの部分なんですけど、1回目の検証ワーキング際には、同じく進捗状況で目標値を達成しているものから、今回の4番の進捗率が80%未満というところの区分を、進捗状況とあわせて4番目のところに効果が十分に現れていないというような評価を書いていたんですが、ここにつきましては、柴山委員からも観光入り込み客数や輸出の量だとか、数値的には80%の目標に到達してないけれども、力を入れて十分成果も上がっているところもあるという発言もあり、また、そういった意見も踏まえて、再度見直して、これまで道の戦略につきましては、いわゆる総合計画の政策評価との連動というものも意識してやっていたところもありますので、今、この9行目に書かせていただきましたが、今回検証にあたっては、道の政策評価における指標の達成状況の判定を参考に四つに分類して点検評価を実施したということで、あまりABCとつけなくて、1、2、3、4という形でさらにその定量的な評価ということで、本当に進捗状況が100%以上、90から100%、80から90%、80%未満ということで、ちょっと修正をさせていただいているところでございます。

その中でも22行目以下ですが、KPIの進捗に関する記載内容につきましては、ワーキンググループにおいてご説明してきたとおりとほぼ同じでございます。7本中4本が進捗率80%以上であること。KPIについても107本中82本が進捗率80%以上ということで、全体としては約75%が今回でいう数値目標の①、②、③の80%以上となっている状況でございます。

33行目以降に、KPIの立て方について、委員の先生の皆様から戦略全体の目標との整合性であるとか、ここでも道民への分かりやすさ、また地域実態に反映する指標にすべきといった、ご意見もございましたので、ここは項目の後ろに主な意見ということではなくて、本文の中で地域戦略について検討を進める必要があるということをご書かせていただいております。

10ページ目以降につきましては、この全体評価ではなく、個別の重点戦略プロジェクトの検証から始まって、基本、地域とやっていくんですが、この重点戦略プロジェクトにつきましては、構成といたしまして一番上に数値目標の状況と、真ん中のここでは5行目にありますが、施策の推進状況、10行目に主な課題という順で整理してございます。基本的に、これまでご議論いただいた内容を記載してございますので、ここでは主に委員のご意見を反映した箇所をご説明させていただきたいと思っております。

11ページ目になりますが、ここでは「攻めの農・林・水産業」、一次産業の確立プロジェクトでございますが、19行目20行目、坪田委員、小磯座長から、ご意見を踏まえて、ここは持続可能な一次産業というキーワードで、今後を見据え、ここでは輸出といった競争力強化のみならず、持続可能な一次産業をつくる視点も重要であるということを課題として挙げさせていただいております。

次をめくっていただき、12ページになりますが、輝く「アジアのHOKKAIDO」創造プロジェクトというところなんです、これから域外から稼ぐ力を高めるというねらいのものでございますが、今後大きなチャンスとして、ウポポイの開設、東京オリパラと続けて、柴山委員からのご意見も踏まえ、アドベンチャートラベルワールドサミットの誘致などといったことの詳細名を追加して記載して書かせていただいています。

また、同じページの21行目につきましては、熊谷委員からもご意見が出ましたが、小規模市町村における、技術継承、人材の継承が難しいという状況をより具体的に書き込んでございます。26行目以降には、重点戦略プロジェクトの今後の方向性ということで、32行目以降、各委員の皆様からのご意見を本文中に取り入れまして、13ページの3行目から、その箇条書きの後に北海道の地域創生、人口減少対策の観点から道民に分かりやすいメッセージとなるよう、また後述する新たな視点も取り入れながら、数値目標の設定方法も含め、そのあり方を検討する必要があります。重点プロジェクトについては、ちょっと分かりにくいものもあるので、もう少し再構成してはどうかということの意見を入れてございます。8行目以下につきましては、こちらも委員の主な意見ということで出てきたものについて、括弧でラベリングしながら、重点化であるとか、地方創生関係交付金であるとか、数値目標、KPIといったグルーピングしながら、書かせていただいています。その中で18行目に地方創生関係交付金とございますが、前回のワーキングで小磯座長の方から本当はその戦略の検証の中には、いわゆる地方創生関係の交付金の使い方なども、きっちり検証を本来ではするべきだということもご指摘いただいて、ちょっと今回なかなか説明までいくのは難しいんですが、資料といたしまして、後ろの方に地方創生推進交付金活用事業一覧、道事業分。ここに事業ごとに戦略の位置付けと総事業費、そのうちの交付金額、またそのKPIの進捗状況などについて記載しておりますので、後ほど確認いただければと思いますが、交付金につきましては道としては、ここに書いてあるとおりでございますが、総合戦略の推進という目的のもと、制度の範囲内で有効に活用させていただいているという認識を持ってございますので、数値目標を目指して、事業を推進させていただいておりますので、後ほど改めてご確認いただきたい。

次に、14ページ目から基本戦略の検証ですが、これにつきましても、5つの柱ごとに1ページ単位で数値目標、KPIの状況と施策の推進状況、課題と方向性の順に記載してございます。重点プロジェクトと同様に、記載内容については1回目、2回目のワーキングでのご議論をベースとしておりますので、こちらも委員の意見を反映した箇所を説明させていただきます。

14ページ下の28行目ですが、これは坪田委員の方からご発言ございましたが、この戦略については、子ども未来づくり北海道計画、いわゆる少子化の計画、そして雇用創出基本計画、この二つの計画が今まさに今年度、つくられようとしているということで、それがきっちり整合性、連携を図ってやるべきだということについて記載させていただいています。

次に15ページですが、これは多くの委員の皆様からご発言ありましたが、18行目なんです、柴山委員、梶井委員、篠崎委員から取上げてなんです、この高齢化や人口減少が進む中でもということ、住み続けたいと思える生活環境を整えるという、この戦略が人口減少下における人口減少を前提としたところでの課題であるというようなご意見がたくさんあったので、そこを明記する形にさせていただきます。

めくりまして16ページですが、ここは産業と雇用の場を作るという戦略のところ、25行目から29行目までですが、坪田委員、小磯座長から、改めてその雇用に関する重要性についてご意見をいただいたことも踏まえまして、ここで様々な業種、様々な分野での対策、またはそのミスマッチの解消などについて記載を拡充させていただいております。

最後、この項目につきましても、19ページ目に委員の主な意見ということで、数値目標、KPIまたは課題のあり方、施策の方向性、あり方について委員の皆さんの主な意見を列記させていただいております。

20ページ以降は地域戦略の検証でございますが、これにつきましては、これまでご提示した資料をベースに記載しておりますので、今回、説明は省略させていただきます。

少し飛びますが、25ページになりますが、市町村戦略支援の検証ということで、改めまして北海道創生の取組については道の戦略に加えて、市町村戦略への支援、これを両輪としてやっているということと前段3行目以降で書かせていただき、市町村の取組には、資金、ひと、情報の3つの側面から総合

的にサポートしてきたということで、その概要を表にまとめておりますが、9行目以下、市町村戦略支援の課題と方向性ということで、一番下の行になります。市町村戦略推進上の課題と把握調査ということで、国や道に求める支援内容に関するアンケート結果をベースに、市町村ニーズをお示しし、財政支援と情報提供の2つのニーズが高いということをお示しし、中でも国が交付金で道については情報提供、助言ということがございますので、26ページ以降につきましては、情報、人的、財政的支援の順番で課題について、書かせていただいております。20行目以降に様々な意見をいただいたんですが、ここでは多分野にまたがらず、特に市町村支援についていただいたご意見のところを、このパートでは記載させていただいております。

27ページ以降は、特に第2回ワーキングで皆様に本当に白熱したご議論をいただいたところですが、現行戦略策定後の経済社会情勢の変化、それを踏まえた新たな視点ということで、記載しておりますが、ここは以降は、いただいたご意見を本文中に反映してございますので、主な箇所を説明させていただきます。17行目ですけれども、柴山委員、梶井委員、篠崎委員から、先ほどお話をさせていただきましたが、今後のまちづくりについては、人口減少を前提にどうか人口減少下におけるまちづくりというものが必要なんだということ、小林委員の方からご指摘ありましたが、19行目にありますけれども、このまちづくりについて老朽インフラの更新、ハード面についても言及の必要性があるということをこちらでも明記させていただき、23行目は、梶井委員の方から教育の重要性について、様々なご意見いただいたことを踏まえ、教育内容を追記した人づくりの内容としてございます。

おめくりいただき28ページ目は13行目に、小磯座長、篠崎委員の方からも発言ございましたが、外国人材の受入拡大、またその共生ということで、記載してございます。また、29ページ目の24行目ですが、こちら小磯座長からもお話がありましたが、改めて札幌市との連携強化について特出しして書いてございます。また、30ページ目の9行目以下に主な意見ということで、関係人口、雇用について、次期戦略の視点について記載しきれなかった部分を追加してございます。

31ページ目、その新たな視点に加えてといいますか、今後重点的に取り組むべき事項、方向性ということで、ここでは次期戦略に向けて、重点的に取り組むべき事項、方向性についてここは各委員のご意見を紹介するという形で記載してございます。主な意見といたしまして上から改めて人口減少下における地域づくりについて、20行目に外国人との共生について、24行目にひとづくり、28行目に北海道の独自性、優位性に関して重点的に取り扱うことと、32行目に札幌一極集中への対応、36行目に市町村への情報支援。この6つに分類し、意見を記載してございます。そうした上で戻りますが、この31ページ目の6行目に、今後、本意見を参考に検討を進めていただきたいという結論としてございます。

最後になりますが、32ページ目、終わりにという章を設けまして、ここでは検証結果の縮めの言葉といたしまして6行目以降、道が次期総合戦略を策定するにあたっては、ワーキング各委員の意見を集約した検証結果を参考に真に北海道の地域創生に資することになるよう強く期待するというので、結んでございます。また、次のページには、本日は添付してございませんが、これまでの1回目、2回目の検証ワーキングで使った資料など、人口ビジョンに関する補足するデータでありますとか、各戦略の推進状況の資料を添付する予定でございます。

少し長くなりましたが、報告書について委員のご意見の反映状況を中心に説明させていただきました。記載内容につきまして改めてご議論いただきまして、事務局としては、修正等についてこの場で結論を得られるものはこの場で、結論を得られないものにつきましては、座長と事務局にて調整させていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。私からは以上です。

#### 【小磯座長】

ありがとうございます。限られた時間でこれまで2回、かなり活発なご意見をいただいて、それをまとめると大変な作業だったと思うんですが、まとめの基本的な考え方としては検証とは言いながらも、すべての検証をこのワーキングでやるのは難しいということで、基本的ないろんな考え方とか、意見をまず各委員から出してもらって、それを事務局として反映できる形での検証という部分と、それからなかなか難しい部分は、各委員からの意見をそのまま紹介するという形で検証ワーキングとしての議論のプロセスを紹介するという意味合いも含めて報告するという、そういう性格のまとめという形で理

解させていただきました。ということで、そのような前提で最終的にこの表現はちょっととか、私はこういう思いで申し上げたのではないとか、或いは新たにこういうところも入れたらどうかと、今日最後の機会としてのご意見いただき、最終のまとめにしたいと思っております。

一応これは検証ワーキングの意見ですので、ワーキングのメンバーからそれぞれご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

他の皆さんはこうした議論を聞いておいていただいて、これからの本委員会でこの資料が報告されますので、勉強していただければと思います。

#### 【坪田委員】

事前に送っていただきました素案の方で、数値目標、KPIの進捗、評価の仕方、前はAに①、②、③、Bということで、ちょっと前の評価の仕方には納得しづらいところがあったんですが、今回整理していただいて客観的になり、これは良かったと思います。それから、これまでの議論の中でも出てきたと思うんですが、例えば14ページ、これは教育費の増加などにより、なかなか子どもを持ってないと思います。教育費も確かに増加しているんですが、一方で所得が伸びてないっていうのも大きいと思います。この辺についても加えたらいいかなと思います。

#### 【梶井委員】

いろいろな意見をうまく集約していただいて、適切なところに当てはめていただき非常に分かりやすくなったというふうに思っています。

あと一つ、もう少し私も言い足りなかったなというのは、道内の地域の中で文化教育格差というものが少しあるのではないかと。教育の部分ではそういう文化教育格差というものがあるがために、札幌市への人口集中というのが起きているので、そこをどういうふうに埋め合わせるかという、そのところも重要なかなと思います。この間も浦幌町に行くことがあったんですが、その町が危機意識を共有して、それをテコに次世代育成に町ぐるみで取り組んでいて、とても成功しているなという感触を得ました。全体的にはまとめていただいて良かったのではないかと感じております。以上です。

#### 【小林委員】

私が申し上げた、これは人口面だけではなくてインフラ等も加えていただき、さらに何か加えるものがあるとすれば、今年の6月の骨太の方針の中でもあった官民連携で乗り越えていくとか、そういった未来につながるような文言があってもよかったかなと感じたところです。

#### 【柴山委員】

前回、検討された地方創生推進交付金の関係を追加で整理していただきましたが、できれば本文中に入れてもいいのではないかと感じたところです。前回言い忘れたところでは、北海道の強みの関係で、食と観光の他に、スポーツの話をしていただいた方がいいのかなと思います。北広島のボールパークですとか、北見でスポーツの合宿に力を入れているといったところがございます。北海道のスポーツも、将来的には伸びる要素もあると思いますので、少し触れていただければいいのではないかと思います。

#### 【小磯座長】

私も座長という立場なんですけど、事務局には何とかまとめていただいたということで、やっぱりせっかくここまでまとめていただいたんで、より良いものにしていただくという中で、少し付け加えさせていただきますと思います。

どこまでこの中に組み入れていただくかどうかは、あとで相談していただければと思うんですけれども、今、地方創生を巡る動きというのを一言で今の流れを見れば、この1期目の地方創生は、国が思うような形では進まなかった。まずはその反省が大事だと思います。出生率も落ちていきますし、一番大きいのは東京への社会移動が加速している、だから、あれだけの政策を進めたにもかかわらず、東京一極集中が加速しているという、この認識の中で北海道が何をなすべきかというその姿勢はどこかで打ち出してほしい、それが検証の大事な部分ではないかと思います。それをただ人口を増やすという国の家族

政策なり、子育て支援というそういうダイレクトな施策は北海道が打ち出せないわけで、そういう状況認識の中で、北海道が何をなすべきかという、首都機能の分散というこの政策に対して、北海道が声を上げるべき部分はかなりあるわけです。例えば、一番象徴的なのは、ちょうど地方創生の最初の議論の頃というのは、北海道がバックアップ拠点構想という、3.11の経験の中で、現実にはアクサ生命とかユニシスとか、いろんな大企業の本社が北海道に移転していく、あの流れをいい意味での首都機能の分散という形で、そういう取組は、しかもそれは北海道庁のバックアップ拠点構想、それに続く強靱化政策というのは大事な目玉政策ですから、そういうものをさらにしっかりやっていくということです。その部分はちょっと抜けているのが非常に気になるという、これが1点目です。

それから、これも私、1期の地方創生の協議会の場でも何回も申し上げて、東京でもいろいろ発言させていただいたのは、やはり東京一極集中で特にその地方創生の契機になった若い女性がやっぱり一番出生率の低い東京にどんどん集中して出生率の負のスパイラルとして、これは日本の人口減少の大きな構造的問題だと。その一番大きなきっかけになるのが大学進学という、人口10%の東京都に大学生が26%のシェアでいるというこの歪な構造。これを是正していくためには、地方がしっかり頑張ってそういう高等教育をする機関をつくる、なかなか難しいんですが、今、現実には東京では、東京にある大学の定員抑制みたいなことも少し出てきているわけで、ただあまりにもそれはやっぱり中途半端で、昔は工場等立地規制法で工場と同じように大学の立地を首都圏で規制していたのが20世紀の国の政策であったわけですから、だからそういうやっぱり骨太の大都市圏の分散という首都機能の分散というものを地方から声を上げていくと、この部分は北海道の地方創生に向けた施策の柱として、どこかにないと、しかもやってきたものが今、抜けていることになると見る人から見ると、なんか政策が後退したのかなという印象も持たれかねない。そんな意見もあったという紹介でもいいと思うんですが、少なくとも、北海道の総合戦略の検証としてはそうした問題意識をしっかり持っているよというところを少し付け加えて発言させていただきたいと思います。

あと、付け加えてどうでしょうか。よろしければ、こういうところで少しまとめて、まとめ方については事務局の方にお任せをいただくといった形で進めさせていただくということで、よろしいでしょうか。

あとは事務局の方は、何かございますか。

#### 【堤課長】

そうですね。本当に3回、いただいた意見につきましては、少なくとも委員の意見としては少し取り込むこと、小磯座長と相談して書きぶりについては整理していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

#### 【小磯座長】

それで8日ですね、今度の。そこで検証ワーキングの報告をするという流れになりまして、今のところの事務局のイメージとしては、最初に私の方から簡単に主旨を報告させていただいて内容は、事務局からご説明と。そこでは今申し上げましたように、本来はやっぱり地方創生という政策に対して、どうあるべきかという検証をこのワーキングというレベルというよりは、やっぱり本協議会のそこでは基本的な議論をしっかりしていただくべきであって、その議論に少し参考になるように我々前段に事務的な作業をさせていただいた、その経過報告と、そんな主旨でご説明をさせていただこうかなというふうに思っております。従って、本文にすべての意見を集約して一本化して盛り込む、逆に言うといろんな意見が出たので、それは各委員の意見という形で整理をさせていただいて、そんな流れで具体的中身は事務局の方からご説明いただくという形で進めていきたいというふうに思っておりますが、いかがでしょうか。

#### 【梶井委員】

今、小磯先生がおっしゃったことですが、バックアップ拠点構想というものが確かにあったと思いましたが。人口減少というどうにもならない流れの中で、何かこう意識が縮まってきて、一人一人がそれに対してどうしたらいいかという、少し消極的な議論になりがちだったかもしれません。先生がお

っしやったように首都機能の分散を北海道から声を上げていくんだっていうことは非常にアグレッシブなことで、それは道民一人一人の覚悟が問われているんだなという感じがしましたので、全体としては、都市機能を分けてくれれば、北海道でちゃんとそれを引き受けて発展する覚悟はあるよというようなところまでビジョンとしてはいけると、それはそれで覚悟の見せ方としては面白いなと思います。

#### 【小磯座長】

そういう部分は少なくとも必要だと思います。特に今の時代、私も長く国土政策とか地域政策に関わっていますけれども、今ほど東京が中心にいる時代って、オリンピックの影響だというふうに思うんです。だから 20 世紀は、やっぱり分散型国土とか地方に何とか持っていこうという、常にそういうムーブメント、政策の動きはあったんですが、やっぱり地方から声を上げていかないと、東京からはなかなか出てこない。地方創生の役割って地域で議論すると、やっぱりそういう姿勢というのは大事だと。協議会の方でどういう受け止めをされるか、是非そういうところを見ていきたいと思います。

#### 【堤課長】

この後につきましては、今、小磯先生にご一任されたということでやっていきたいと思いますので、この後につきましては 2 部構成の後半、幹事会ということで、つないでいきたいと思います。

高見局長については、別用務につき、ここで退席させていただきます。

以降の進行につきましては、私の方でさせていただきます。

(以降、幹事会)